

おかやまの未来を考えるシンポジウム (H30. 2. 22)

～インフラを守り、賢く使う地域活性化～

主催：国土交通省、山陽新聞社
共催：インフラメンテナンス国民会議

- 多くのインフラの老朽化が進行する一方で、インフラは地域の生産性向上や生活の質の向上等に寄与し、地域活性化に大きな役割を果たすことが期待されることから、インフラをどのように守り、活性化へつなげるかを考えるシンポジウムを開催
- 特別講演では、土木における先人の努力の上に現在の発展があり、これを未来へ引き継いでいくことが重要との指摘があった
- パネルディスカッションでは、防災・減災意識の再認識の重要性や、街中活性化のため公共交通の充実等の視点で議論が行われ、人口減少が進む中、持続可能なインフラの整備(メンテナンス)がこれまで以上に求められることを確認した

参加人数：約300名

◇開会挨拶



中国地方整備局
局長 川崎 茂信氏

◇来賓挨拶



岡山市長 大森 雅夫氏



インフラメンテナンスやインフラツーリズムのパネル展示

◇特別講演 『岡山藩郡代 津田永忠の近世土木遺産に学ぶ』



「現代人が歴史から学ぶべきことは、先人の遺産をどう守り、その知恵をどう活かして未来へ伝えていくかである」
「観光客を呼び込むため、電車などとの乗り換え拠点を充実させ、観光地と連携すれば生き残れる」
NPO法人公共の交通ラクダ(RACDA)
会長 岡 将男氏

◇情報提供

『インフラを取り巻く状況とインフラメンテナンス革命』

国土交通省総合政策局
事業総括調整官 鈴木 学氏



◇パネルディスカッション 『インフラを守り、賢く使う地域活性化』

○コーディネーター：
山陽新聞社
編集委員室長 岡山 一郎氏

○パネリスト：
NPO法人 公共の交通ラクダ
会長 岡 将男氏

(株)三好野本店
代表取締役社長 若林 昭吾氏

おかやまアナウンス・ラボ(株)
代表取締役 森田 恵子氏

国土交通省中国地方整備局
企画部長 吉田 敏晴氏



三好野本店 若林氏



おかやまアナウンス・ラボ
森田氏



中国地方整備局 吉田氏



主なコメント

- ・交通インフラはネットワークであることが大切であり、これを維持することが大切。(岡氏)
- ・災害が少ないと言われる岡山では、防災・減災への関心が薄いことが問題。老朽化していくインフラに対しても、危機感を再認識すべき。インフラを整え、基盤を造っていくための人材育成が必要。(森田氏)
- ・瀬戸大橋などのインフラのおかげで営業の範囲が広がった。渋滞解消はビジネスチャンスにつながる。(若林氏)
- ・高校生による道路点検の事例があるなど、市民と一緒にメンテナンスを行うことも大切。インフラメンテナンスは予算や技術もそうだが、人材が最も大切。(吉田氏)